

1 第41号

日経平均株価

1万6360円71銭

▼195円24銭（前日比）

TOPIX

1287.90

▼16.37（前日比）

2016
8/29
月曜日発行元 ココ・パートナーズ株式会社
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

東京五輪へ向け待ったなし!

電線地中化や道路、ゼネコンなど



首都高速を含めてインフラ整備は待った無しだ!

池都知事が選挙の公約として掲げていたが、その後府も経済対策として東京五輪への電線地中化を進めることが伝えた。これに

絡んでイトーヨーギョー(5287)やゼニス羽田ホールディングス(5289)が人気化し、地

2013年9月の東京五輪誘致決定後、メイン会場となる国立競技場のデザイン変更など様々なトラブルが発生したが、今後は開催までの残り4年間で競技場の建設や首都圏のインフラ整備をトラブ

絡んでイトーヨーギョー(5287)やゼニス羽田ホールディングス(5289)が人気化し、地

インフラ整備関連見直しへ

2016年リオデジャネイロ五輪が現地時間の21日に閉会式が行われ、国際オリンピック委員会(IOC)のバツハ会長から五輪旗が小池百合子東京都知事に渡された。2020年東京五輪までの4年間という準備期間は長いようで短い。インフラ整備へ向けての様々な取り組みは待った無しの状態であることから、改めて関連銘柄が見直されることになりそうだ。

技場の事業者である大成建設(1801)や大林組(1802)、清水建設(1803)、鹿島(1812)の大手ゼネコンが中核で、首都高の補修など道路整備ではショーボンドホールディングス(1414)、ピーエス三菱(1871)、前田道路(1883)なども改めて注目する必要があると見られる。

日経平均日足チャート

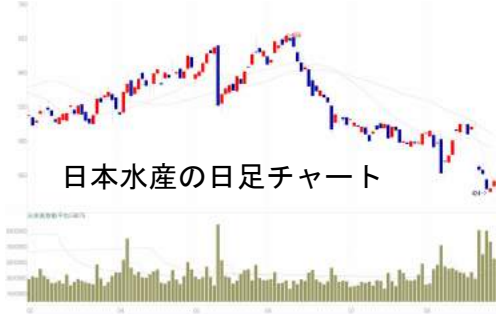


今週の動意銘柄

日水下落率14%に迫る

大型増資で希薄化と需給悪懸念

週明け22日、日本水産(1332)が急落、下落率は14%に迫った。3015万株の公募増資と365万株の株式売り出し、上限507万株のオーバーアロットメントによる売り出しを実施すると発表したことを受け、株式価値の希薄化と需給悪化を懸念した売りがかさんだ。調達資金は最大で



無電柱化人気続く

イトーヨーギョ連続S高

22日、イトーヨーギョ(528)が先週末に引き続き高まると買われ、ゼニス羽田ホールディングス(528)も続騰、無電

柱化関連がこの日も賑わった。政府が2020年の東京五輪に向け、電線を地中に埋めて電柱をなくす無電柱化を進める方針が伝えられたことが引き続き材料視された。為替の動向に神経質になるなかで、テーマに乗る内需関連としての安心感も人気を集めている要因。

22日、イハラケミカル工業(498)

イハラケミ急反落

167億円に達し、EPA医薬品本体の生産体制強化など医薬品事業と食品工場設備の維持更新、借入金の返済などに充当。新株発行に伴う希薄化率は最大で12.7%におよぶ。

22日、イハラケミカル工業(498)

イハラケミ急反落

9)が急反落、約1カ月半ぶりに年初来安値を更新視した。16年10月期の業績予想を大幅に下方修正したことを嫌気した売りがかさんだ。連結営業利益37億円を29億円(同41.2%減)へ。海外向け畑作用除草剤の需要下ぶれ懸念が広がったとしている。今年度に入って2度目の下方修正で、農薬大手のクミアイ化学工業(4996)も連想売りに下げた。

小松精練S高

炭素繊維で木材補強技術開発

23日、小松精練(358)がストップ高。一部メデアが国産杉で作った炭素繊維複合材で補強する技術を開発したと報じたことが材料視された。木材の強度を大幅に高められるため薄くても使えるようになり、価格



も安くできるという。東京オリンピックのメイン会場となる国立競技場向け部材として提案していると、も伝えられており、今後の業績貢献を期待した買いを集めた。

小野薬血液がん保険適用

23日、小野薬品工業(4528)が続伸。日本経済新聞が、相良社長は年内にもがん免疫薬「オプジーボ」を血液がんの一種で保険適用を受け、販売することと報じたことを受け、買戻しが継続した。

オプジーボは皮膚がんの一種の「悪性黒色腫(メラノーマ)」や肺がんの治療薬として使われているが、9月には腎細胞がんにも適用され、17年3月期中に4つのがんの治療に使われることになりそうだとされている。

ルネサス大幅続落

23日、ルネサスエレクトロニクス(6723)が大幅続落。前日に米半導体大手インターシール買収が伝えられたが、資金負担による収益圧迫を警戒する売り優勢の状況が続いた。前日は車載用半導体の拡大を期待した買いが先行したが、買収額が最大3000億円規模とされることから、巨額の負担を弱材料視する売りにマイナスで引けていた。

23日、ルネサスエレクトロニクス(6723)が大幅続落。前日に米半導体大手インターシール買収が伝えられたが、資金負担による収益圧迫を警戒する売り優勢の状況が続いた。前日は車載用半導体の拡大を期待した買いが先行したが、買収額が最大3000億円規模とされることから、巨額の負担を弱材料視する売りにマイナスで引けていた。

ガーラはストップ高

23日、ガーラ(4777)がストップ高。スマートフォンゲームアプリ「Arcane」(アーケイン)英語版(iOS)がカナダで、「App Store」の「ロールプレイングゲーム(RPG)」無料部門で1位を獲得したことが材料視された。



5)、日立国際電気(6756)、タツモ(6266)など半導体製造装置関連株が軒並み高。国際半導体製造装置材料協会(SEMI)が発

半導体装置関連軒並み高

北米BBレシオ4カ月ぶり上昇

スクリーンホールディング(735)が値上がりに伴って買われたほか、アドバンテス(6857)、東京エレクトロン(803

24日、表示した7月の北米半導体製造装置BBレシオが1.05倍と4カ月ぶりに上昇したことが好感された。米アプライドマテリアルズが前週発表した5〜7月期決算が市場予想を上回ったことや為替市場で円高に歯止めがかかっていることも買い気を誘った。

オハラはS高

24日、オハラ(5218)がストップ高。この日、マイナス30度の低温下で駆動する全固体リチウムイオン電池の試作に成功したことが買い手がかり。

しまむら販売低迷を警戒

24日、しまむら(8227)が急落。23日に発表した8月度の月次既存店売上高が前年同月比5.5%減、全店も4.3%減と2カ月ぶりに前年実績を割り込んだことから、今後の販売低迷を警戒した売りがかさんだ。敷パットやタオル

エフピコ4連騰

24日、エフピコ(7947)が4連騰。みずほ証券が投資判断を「中立」から「買い」へ、目標株価を4900円から6100円に大幅に引き上げたことが材料視された。リサイクルPET透明容器の採用が拡大するなどオリジナル製品が好調で、原材料高の影響を回避できそうなおかげから、業績見通しも引き上げた。

未着工太陽発電買取

25日、ジー・スリーHDホールディングス(3647)が急反発、一時前日比48円高の175円まで買われた。未着工太陽発電所の買取事業を開始することが発表された。

25日、ジー・スリーHDホールディングス(3647)が急反発、一時前日比48円高の175円まで買われた。未着工太陽発電所の買取事業を開始することが発表された。

視された。17年3月31日までに電力会社との接続契約が締結できない場合は、原則設備認定が失効すること、また設備認定及び接続権利を得たものの、建設計画が滞り稼働

ができていない太陽発電所が相当数存在することから、資金調達予定先との協議に応じて、同社あるいは同社が設立する合同会社が未着工太陽発電所を買い取り、事業計画を再構築するもの。買取規模は総額30億円を予定している。

インバータポンプ



エコフリーク(PD-51、PD-103型)



特長

- 電源周波数に関係なく使用でき、また別筐体のインバータによりポンプ流量が調整可能
- DC ブラシレスモータを採用し、小型・軽量・高効率化を実現

用途

- 清水、海水、不凍液、化学液の循環



三相電機株式会社

本社 〒671-2288 姫路市青山北一丁目1番1号
TEL (079) 266-1200 (大代表) FAX (079) 266-1206
URL : <http://www.sanso-elec.co.jp>

リクルートHD急反落

電通など6000万株超売出し

25日、リクルートホールディングス(6098)が急反落。電通(4324)、NTTデータ(9613)、三井物産(8031)などによる6113万4800株の売り出しと、オーバーアロットメントによる上限336万5200株の売り出しを実施すると発表した。売出価格は9月12日から14日までの期間に決定される。併せて発行済み株式数の1・51%にあたる850万株を上限とした自社株取得枠の設定を発表したが、売り出し株数が最大6450万株で発行株の11・4%におよぶ規模とあつて、需給悪化による株価下落リスクを回避する売りが先行した。



リクルートHDの日足チャート

カヤックス高

25日、カヤックス(3904)がストップ高。ソニー・インタラクティブエンタテインメントとVR体験を拡張するコンテンツ開発に取り組んでいくと発表した。24日に開催された日本最大級のゲーム開発者向けイベントCEDEC 2016では、プレイステーションVRを使った空間演出として、従来の360度動画では表現できない映像視聴体験を発表。

マーケットの話題

この数週間、軟調な動きが続いていた食品系が底打ちの心配となつている。デیفュンシブとの位置付けになるが、為替が円高基調でも単純に買われていないのは、競争激化など個々の企業の事情が背景にある。



ビールの税率はどうなる？

その中で、姿勢だったが、先の参院選で特に今後、税率統一の動きが報じられて不透明なまきでいる。透明なまきでいる。透明なまきでいる。透明なまきでいる。

どうなる？ビール株

政府はビールの税率をの新品を積極的に投入して下げて発泡酒と第3のビールの税率を上げて、統一的に抵抗感が薄れてきている。このキリンホールディングス(2503)や「スーパードライ」のASAヒググループホールディングス(2502)は看板ブランドが税率統一で小売り価格が安くなる。第3のビールの魅力が無くなつても、看板ブランドの見直しでカバーできる可能性もある。税率統一でビール各社の事業戦略が大きく変わり、それが成功すれば株価の評価も変わるかも知れない。

税率統一で戦略一変

ハピネット自社株買

25日、ハピネット(7552)が急反発。発行済み株式総数の4・41%にあたる100万株、取得総額15億円を上限とした自己株取得枠を設定すると発表した。

当面の安値圏にあつたこともあり、自社株買いによる需給改善効果を期待した買いが優勢になつた。2Qはヒット商品に恵まれず、自社作品で投資損失を計上したこともあり、前回予想の売上高8900億円を710億円(前年同期比15・5%減)、営業利益56・5%減)へ減額。

六甲バ好業績再評価

週末26日、六甲バター(2266)が反発、約2カ月半ぶりに年初来高値を更新した。8月5日付で今年12月期の単体業績予想を売上高で471億8000万円(前年同期比5・6%増)へ、営業利益で37億2000万円から48

併せて17年3月期第2四半期累計の連結業績予想を下方修正したが、株価が

修正したが、株価が

修正したが、株価が

億9000万円(同63・3%増)へ上方修正しており、好調な業績が改めて注目された。輸入原料チーズの外貨建価格が軟化基調かつ当初の予想比円高で推移していることによつて原価の低減が見込まれており、為替の円高への不安が継続するなかでは、同社の実態には安心感がある。



米国工場の生産能力増強

グローバルに販売伸ばす

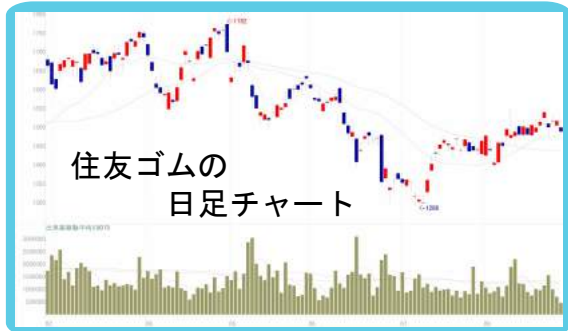
住友ゴム工業 (5110)



住友ゴム工業(5110)の好実態を見直してみたい。国内市販用タイヤでは、ダンロップブランドの「エナセーブ」シリーズや、今年2月にリニューアル発売した、特殊吸音スポンジ「サイレントコア」を搭載した快適で長持ちする低燃費タイヤ「LE MANS 4(ル・マン・フォー)」を中心に拡販、海外も市販用タイヤでは北米・欧州をはじめ、中近東、アフリカ、中南米などで販売を伸ばしている。

米国工場 シオナイン増販による販売構成の良化や、円高による仕入コストの減少などが寄与、産業界も医療用ゴム部品や制振事業が堅調に推移している。つれて、今年17年12月期は第2四半期累計で売上高は3735億6600万円(前年同期比3.9%減)と円高

の影響により減収ながら、営業利益では全社をあげての総原価低減活動などが寄与し307億8200万円(同5.2%増)と増益を確保、通期は売上高8100億円(前期比4.6%減)、営業利益700億円(同9.2%減)を見込んでいます。8月5日には米国工場の乗用車・ライトトラック用タイヤの生産能力を、現在の日産5000本から、19年末に日産1万本まで引き上げることを発表している。同社では昨年10月のグッドイヤー社とのアライアンス契約解消に伴い経営の自由度が増した北米市場において、生産増強及び販売拡大策を検討してきた。これに対応すべく今回、北米で需要の多いSUV用タイヤを中心に現地生産比率を拡大。生産能力増強、生産性向上のための総投資額は8700万ドル(約90億円)1ドル103円で換算)を計画しており、海外戦略を加速化させる方針。



の影響により減収ながら、営業利益では全社をあげての総原価低減活動などが寄与し307億8200万円(同5.2%増)と増益を確保、通期は売上高8100億円(前期比4.6%減)、営業利益700億円(同9.2%減)を見込んでいます。8月5日には米国工場の乗用車・ライトトラック用タイヤの生産能力を、現在の日産5000本から、19年末に日産1万本まで引き上げることを発表している。同社では昨年10月のグッドイヤー社とのアライアンス契約解消に伴い経営の自由度が増した北米市場において、生産増強及び販売拡大策を検討してきた。これに対応すべく今回、北米で需要の多いSUV用タイヤを中心に現地生産比率を拡大。生産能力増強、生産性向上のための総投資額は8700万ドル(約90億円)1ドル103円で換算)を計画しており、海外戦略を加速化させる方針。

カプコンは自社株買い



26日、カプコン(9697)が継続発行済み株式数の2.67%にあたる150万株、取得総額33億円を上限とした自社株取得枠を設定すると発表したことを発表し、需給改善と株式価値向上に伴う株高を期待した買いが先行した。買い付け期間は8月26日から9月21日まで。同様に発行株

今週の動意銘柄

の2.49%にあたる200万株の自社株取得枠を設定した小林製薬(4967)、2.0%、1000万株の花王(4452)、1.50%、4万1000万株のソーシヤルワイヤー(3929)も高い。

アイHD大幅減益
26日、アイホールディングス(9627)が大幅続落。17年4月期第1四半期の連結決算は、売上高578億1900万円(前年同期比10.9%増)、経常利益23億7600万円(同17.7%減)と2ケタ増収ながら大幅減益で着地したことが失望売りを誘った。調剤薬局新規出店などで事業規模拡大が続くが、在宅やジェネリック医薬品対応のための新卒薬剤師の教育研修など、経費負担が利益を圧迫した。

更なる事業拡大へ布石着々

銘柄探究



記者の目で企業実態を解析



日本商業開発の連結業績推移 単位：100万円

決算期	売上高	営業利益	純利益
14/3	10,828	1,440	666
15/3	16,252	3,547	1,863
16/3	17,378	5,955	3,605
17/3	25,900	3,690	4,400

を考慮して
た反動
計上し
案件を
の低い
の反動
を考慮して
た反動
計上し
案件を
の低い
の反動
を考慮して
た反動
計上し
案件を
の低い
の反動

これを契機に、同社の100%子会社である「地主アセットマネジメント株式会社」を設立。企画人として、JINUSHIビジネス、案件のみを組入れる非上場オープンエンド型不動産投資法人「地主プライベートルート投資法人」の設立準備に向けて本格的に着手。「地主私募リート」の資産運用は「地主アセットマネジメント」が受託し、年内には運用に関する諸手続きを終了させ17年1月初旬を目途に運用を開始し、5年で1000億円以上の規模への成長を目指す方針。

私募リート1000億円目指す

日本商業開発(3252)の「JINUSHIビジネス」は低リスクで長期安定収益が見込める不動産投資ビジネスとして注目を集めている。知名度向上とともに企業年金基金などの運用ニーズが高まっており、更なる飛躍が期待される。

スーパードライなどのテナントを誘致。建物に対してはテナントが投資するため保守・修繕などの追加投資が不要であり、底地への賃

日本商業開発(3252)

躍進するJINUSHIビジネス

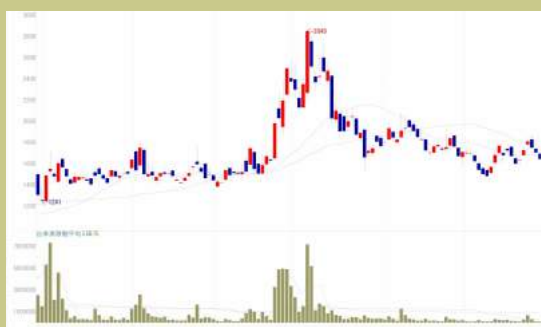
同社が「JINUSHIビジネス」で運用する底地に関しては、日本国内の人口20万人以上の中核都市を対象に、食品スーパーなどのテナントを誘致。建物に対してはテナントが投資するため保守・修繕などの追加投資が不要であり、底地への賃料で長期的に安定収益が見込めることが魅力となっている。今17年3月期は通期連結売上高で259億円(前期比49.0%増)、営業利益で36億9000万円(同38.0%減)と大幅増収ながらも営業減益を見込んでいる。これは都内屈指の優良案件である渋谷区神宮前5丁目プロジェクトを前期に売却するなど過去2期間に渡って利益率

の間で、総額100億円の相対型による借入枠設定契約を締結しているが、これを6月22日には150億円へ貸付極度額の引き上げを実施した。事業拡大を見据え大口の不動産投資案件に対応を可能とすることが目的で、更なる飛躍へ向けた取り組みを進めている。また、日本初となる不動産の底地のみを組入対象とした特徴のある私募リートを組成すべく「ケネディクス商業リート投資法人」とのサポート契約の変更契約締結を8月10日に行っている。

億4000万円の借入を実施。加えて三井住友銀行と

今週の

活躍期待銘柄



セレス (3696)

通期上ブレ期待が高まる

セレス(3696)の株価は8月8日に1463円まで売られたが、その後は目先のな売りも一巡し出直る気配となってきた。

累計500万人が利用する「モッピー」や最高水準のポイント還元率を誇る「モバトク」を中心にポイントサイトを運営、採用課金型のアルバイト求人サイト「モッピージョブ」も展開している。会員登録方法やプロモーション手法の改善効果が表面化し、EC連携型のアフィリエイト広告も強化。これにより今16年12月期は第2四半期の単独営業利益で2億9400万円(前年同期比28・0%増)を達成、通期予想である5億2000万円(前期比11・8%増)は上ブレ期待が高まる。9月26日に東証マザーズへ新規上場するバリュエーション(3960)に出資していることも注目される。(と)

新規上場バリュエーションDに出資



タイガースポリマー (4231)

今期は大幅利益上ブレ観測

タイガースポリマー(4231)は500円割れ水準で当面の底値を確認、出直りに転じてきた。地中埋設用ケーブル保護管「タイレックス」を扱うことから、無電柱化関連銘柄一角として関心を集めているが、足もとの業績も好調。PERは8倍台、PBRも0・5倍台と割安感が働き、本格反騰へ進みそうだ。

17年3月期第1四半期は、中国、タイで自動車部品が伸び、為替の影響を吸収して収益が急改善、連結営業利益8億2300万円(前年同期比42・4%増)と利益が急増した。第2四半期累計計画の10億5000万円(同9・1%減)に對する1Qの進捗率は78%に達する。

さらに、9月からはメインユナイターズのホンダ(7267)が新型フリードを投入する予定で、大幅な利益上ぶれが観測されている。(先)

テーマに乗る好業績割安株

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

内需系をコツコツ拾う作戦

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

心配されている為替の動きについては、1ドル100円を割り込むと固くなる流れが続いています。この動きをみて輸出系などが一時的に手控えられる場面もありましたが、トヨタ自動車(7203)やホンダ(7267)、日産自動車(7201)の大手自動車メーカーに加えて、受注好調から半導体や液晶製造装置の関連銘柄も買われていきます。

この動きで内需系に傾きかけていた展開がやや見送られたのですが、それでも運輸、医薬品などの一部が買われたほか、不動産も

三井不動産やH20リテに妙味

産もしつかりしてしまいました。為替の100円維持で輸出系が牽引役になっていくのですが、日経平均の動きをみまずと19日以後は1万6400円〜1万6600円のゾーンの中の動きになっており、1万6800円台へと抜け切れていません。この突破役を担うのが内需系とみられます。すでに調整局面を終えて、もみ合いゾーンになっているなど、出番待ちの状況が続いています。輸出系といっても105円を超えてこなくては業績を浮上させることが出来なただけに、いつまでも100円維持だけで買われるのも限界になるためです。

それに対して内需系は好業績を見込めるうえに、円高でも決算見通しが減額することがありません。現在のもみ合いの動きが一斉高に転じるとすれば、月替わりからではないでしょうか。目先の利益を追うことなく、来月上旬にかけて利益を狙うのであれば、このもみ合い状態が続くところで銘柄を絞って狙う作戦を続けるべきと思っています。大手ゼネコンやマルハニチロ(1333)などの内需系をこつこつ拾う作戦を続けることです。今回の狙いは三井不動産(8801)、エイチ・ツー・オーリートイリング(8242)、セガサミーホールディングス(6460)です。自動車では日産自動車(7201)の1)の動きが俄然よくなっています。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の 株街往来

～終わりは始まりの第一歩～

この数週間

はオリンピックと高校野球を満喫できた。可能ならば開催時期を重複しないほしいと思うが、それは視聴者の身勝手な願いだ。国内外の2大スポーツイベントの視聴でドラマやバラエティ番組に全く興味がなかったが、そのなかで突然飛び込んできたのがSMAAPの解散。多くのメディアが大

きな話題として取り上げていたが、年初の騒動の余韻が残っている状況では改めて驚きを持った方も多いだろう。

SMAAPとは数年前にとあるプレスイベントで直接見る機会があった。それぞれのメンバーが自分自身の役割を守って、漫才という絶妙のボケとツッコミで会場を盛り上げていたのが印象的だった。取材ではアイドルグループやミュージシャンなど様々な芸能人を直接見る機会があるが、その中でもSMAAPは抜きん出た存在感を示していた。解散の真実は知ることができないが、筆者の普段の仕事でも一人が一日欠けるだけで機能しなくなる。今回の解散も小さな歯車が欠けてそれが大きな傷になった可能性もある。ただ、筆者の経験上、崩壊しても何らかの形で再生できるので、解散は次の始まりの第一歩と考えると考えたい。



New product

キープだけでなくヌケ感ヘアも

サンスター 新・霧スタイリング剤

「VO5ヘアデザインクリエイター」



サンスターは、確かなキープ力で支持されてきた「VO5」から、キープするだけでなく霧の軽さを活かしてヌケ感ヘアもつくれる、新しい霧状のスタイリング剤「VO5ヘアデザインクリエイター」を、8月22日に新発売した。ふんわり感をつくる「エアリーメイキング」、ゆる巻きをつくる「バウンシーメイキング」、ポイントの立体感やニュアンスをつくる「アクセントメイキング」の3タイプのラインアップ。加えて「VO5スーパーキープヘアスプレー<エクストラハード>」をリニューアルしている。髪をケアする5種類のVital Oilを配合し、パッケージデザインを一新している。

米国アルミ押出新拠点

神戸製鋼所 鋳入れ式を開催



挨拶する藤井常務執行役員

立X) K P E n c . I n s u s t o d u c t s & c o r p o r a t i o n

神戸製鋼所(5406)は今年4月に米国における自動車向けバンパー材や骨格材などの製造・販売を目的としたKobe Aluminum Products

月9日に現地で鋳入れ式が開催された。当日は関係者含め、合計約50名が出席。今後、2017年後半の加工工程、17年後半の溶解・押出工程の稼働開始に向けて本格的な建設工事に入る。式典では神戸製鋼を代表して、常務執行役員の藤井拓己氏から「米国のCAFÉ規制に伴う自動車軽量化において、当社アルミ製品はお客様より高い評価を頂いており、今後の需要の増加に応じて更に事業を拡大させていきたい」と挨拶、北米市場でも積極的な軽量化提案を通じて顧客の信頼を獲得すると共に、日米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制を確立していく。

企業レター

日経225先物日足チャート



敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

S&P500の動きに注目

米大統領選3カ月前の法則

まるでお盆（6405円）の間で動いたの週だったかだけであった。ディーラーの少ない週では値動きが乏しく商利する可能性が高いという。平均先物は1万6千円前後で推移しているが、少し下がる傾向にある。今回は過去22回の大統領選において19回（確率は86%）で成立している。今回は過去最高値圏にあるが、8日のS&P500の終値は2180.89ptであり、この値を基準にして指数の動きを気にしたい。

（ハチロク）

目均衡表の転換線（1万6千500円）と基準線（1万6千円）を軸として、過去22回の大統領選において19回（確率は86%）で成立している。今回は過去最高値圏にあるが、8日のS&P500の終値は2180.89ptであり、この値を基準にして指数の動きを気にしたい。

米国株（S&P500）がプラスであれば、与党（今回民主党）が勝利する可能性が高

編集後記

先日、面談を受けた特定保健指導で「よくがんばられましたね」とお褒めの言葉をいただきました。体重は目標を超過達成して6キロ減量、血圧も高い部分が152から139へ低下した。ただ、これは努力の結果ではない。夏バテで風邪をこじらせ極度の食欲不振に陥ったからだ。それでも体調が回復してからは怪我の疲労もたまらない。怪我の功名というか、株価という悪材料出尽くし、反転上昇といったところか。ただし、底打ちからすぐ本格反騰に進むことはなく、基礎代謝向上が不可欠。

今週のスケジュール

- ・29日 米7月個人所得・支出
- ・30日 7月労働力調査・有効求人倍率 (8:30)
7月家計調査 (8:30)
7月商業動態統計 (8:50)
米8月CB消費者信頼監指数
- ・31日 7月鉱工業生産 (8:50)
米8月ADP雇用統計
米8月シカゴ購買部協会景気指数
- ・1日 4-6期法人企業統計 (8:50)
8月新車販売台数 (14:00)
中国8月製造業PMI (10:00)
米8月ISM製造業景況指数
米8月自動車販売台数
- ・2日 8月マネタリーベース (8:50)
8月消費者動向調査 (14:00)
米8月雇用統計
米7月貿易収支

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。